

第1回 下久保ダム堆砂対策技術検討会

《議 事 要 旨》

日 時：令和2年12月1日（火） 14：00～16：00

場 所：Gメッセ群馬 301会議室

委 員：清水 義彦 群馬大学 大学院理工学府 環境創生部門 教授
福濱 方哉 国土交通省国土技術政策総合研究所 河川研究部 水環境研究官
石神 孝之 国立研究開発法人土木研究所 水工研究グループ 上席研究員
福井 貴規 国土交通省関東地方整備局 高崎河川国道事務所 所長
八木寿一郎 群馬県 藤岡土木事務所 所長
飯塚 雅彦 埼玉県 本庄県土整備事務所 所長

議 事：1. 技術検討会の設立及び委員長選出
2. 下久保ダム堆砂の現状、課題及び検討範囲
3. 下久保ダム堆砂の各課題の検討の方向性

1. 技術検討会の設立及び委員長選出

(1) 設立趣旨・規約

・事務局より、下久保ダム堆砂対策技術検討会の設立趣旨（案）及び規約（案）として資料－１が読み上げられ、事務局案で承認された。

(2) 委員長選出

・規約第5条に基づき、福井委員より清水委員の推薦があり、他の委員からの承認の上で、清水委員が委員長に選出された。

2. 下久保ダム堆砂の現状、課題及び検討範囲

・事務局より、下久保ダム堆砂の現状、課題、応急対策及び本検討会の検討範囲について、資料－２（1. ～4. ）及び資料－３により説明がなされ、各委員から概ね了解された。なお、その際に各委員より以下の意見・助言があった。

○ダムの寿命は100年と言われているが、管理開始以降100年でダムが駄目になるのではなく、200年でも或いはそれ以上長寿命化させ、これだけの素晴らしいインフラである下久保ダムを長期に使用出来る様にする視点が重要。

○下久保ダムは利根川水系のダムでは比較的首都圏に近い場所にあり、その分、治水利水の両面で重要な役割を担っているが、現在、堆砂の問題が顕在化している。堆砂はどのダムでもいずれは問題となってくるもので、今回の下久保ダム堆砂対策技術検討会における議論が、ダムの堆砂対策の一助となれば良い。

○応急対策として取水設備付近の浚渫を実施しているが、施工後の堆積状況に関し、出来る限り経過観察するのが良い。

3. 下久保ダム堆砂の各課題の検討の方向性

・事務局より、下久保ダム堆砂の各課題の検討の方向性について、資料－２（５．～７．）により説明がなされ、各委員から概ね了解された。なお、その際に各委員より以下の意見・助言があった。

○取水設備付近堆砂対策について、事務局案では、排砂管の設置は、貯水池運用を変更し出水時に水位低下を行うなどしない限り、堆砂の抑制や除去の効果が低いとして、一次選定で検討を終了しているが、水位低下を伴わない排砂管による排砂に関し、運用面、技術面及び下流への影響面などから引き続き検討し、他の対策と比較するのが良い。

○利水容量内堆砂対策について、一次選定で選定された「貯砂ダム掘削」「浚渫」「排砂バイパス」「干上げ掘削」を組み合わせるとあるが、各対策工の特徴を十分に把握し組合せを検討することが重要。なお、検討に際しては受入地の想定や施工計画などについても留意し実施するのが良い。

○排砂バイパスや下流河川置土などは、下久保ダムが無ければ、本来は下流に供給されている土砂を放流又は置土するものであることは河川管理者としては理解出来る。一方で、漁業組合や沿川住民の方々にとっては、ダムがある現状が前提であるため、これら対策を実施するためには関係者の合意形成が重要となる。以上より、関係者の合意形成も想定しながら、運用や実施方法なども含め検討するのが良い。

○下流河川置土に、現在利用している砂礫に粘土シルト分を一定の割合で混合し置土材とする場合、樹林化に繋がらない様に留意する必要がある。

以 上